

1. 事業実施の背景

釜石市では、戦後まもない昭和22年に戦災復興都市区画整理事業が開始され、近代都市建設の第一歩を踏み出したとき、近代化の重要な条件である水道施設についても併せて検討され昭和25年3月釜石市議会定例会において釜石市上水道布設計画（昭和25年度から29年度までの5ヵ年継続事業、事業費1億5,661万円）の議決を得た。一年後の昭和26年に厚生、建設大臣の認可があり、ついで6月1日に水道課が発足し、上水道の建設事業が開始された。

事業実施の背景には、当時繰り返し悲惨な伝染病が各地で流行し、これらを防ぐためには、対症的な対策だけでなく、水道、下水道の建設による予防的対策を講じることが必要であるとの考え方が浸透してきたことに加え、人口増加のなか、下水道の不備により、浸水被害、悪臭の発生、汲み取りの経費と労力の増大等、市民生活に支障をきたす住環境の悪化があった。

昭和30年12月釜石市議会定例会に「釜石市下水道事業築造について」（議案第130号）を提案、昭和31年1月31日の議決を得、同年4月17日に厚生、建設大臣、岩手県知事に申請した。翌年の昭和32年6月20日に公共下水道事業が認可された。

釜石市改良下水道事業築造計画(全体計画)

計画策定年度	S 32年		
計画目標年度	S 42年度		二期の5ヵ年継続事業
処理区名	釜石・中妻・嬉石		嬉石(鈴子、松原、嬉石)
排除方式	釜石	分流式	区画整理事業、都市水理事業で排水路、側溝が大部分整備済み
	中妻	合流式	都市計画の未実施区域で排水路が見当たらない
	嬉石	合流式	都市計画の未実施区域で排水路が見当たらない
計画区域	釜石・中妻・鈴子		旧市内の上水道布設区域(製鐵所工場区域は除く)
	松原・嬉石排水区		
下水道計画人口	52,600人		
排水区面積	699ha		
雨水計画	降雨強度	45mm	昭和18年から昭和30年に至る13年間の第2位
ポンプ場	汚水中継	1箇所	釜石汚水中継ポンプ場の予定地は東前町地内
処理場数	3箇所		内釜石予定地は、新浜町字滝の沢海岸
処理方法	釜石	簡易式	釜石湾の地形及び潮流等の環境(潮流により湾外へ放流)
	中妻	高級式	
	嬉石	高級式	

昭和33年頃の釜石港と市街
(昭和34年度版釜石市勢要覧から)

